

<p>目指す学校像</p>	<p>1 建学の精神 本学園は、日本国民としての常道に従い、人は生きた資本資産なりの理想に基づき、建学の精神を「人間是宝」と決めました。この精神は、生徒の将来を考え一人一人の内在する可能性をいかに開花させるかということにあります。この精神こそ、本学園建学の理念であり、本校教育の根源をなすものであります。 建学の精神「人間是宝」校訓「今日学べ」の具現に努め、文武芸芸四道の進学校を目指します。</p> <p>2 教育使命 若人の未来を考え、次のことを実践することを教育使命としています。 (1) 内在する可能性の開発 (4) 世界文化経済発展の先覚者としての自覚 (2) 創造する心と知性の育成 (5) 平和社会に貢献する奉仕の心の育成 (3) 人間性豊かな徳操の涵養</p>			
<p>学校教育目標</p>	<p>1 けじめある心を育てる 2 自己開発に努力する心を育てる 3 創意工夫する心を培う</p> <p>4 敬愛と感謝の心を育てる 5 健全な体と心をスポーツと文化で育てる</p>			

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価				
年 度 の 目 標					年 度 評 価				
実施日 令和2年5月26日									
重点目標	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からのご意見・要望	評価
<p>●定員の確保を図る。 ●入学者の質の向上を図る。 ●医学クラス・難関大クラス・進学クラスの学力向上を図る。</p>	<p>●学則定員は、各学年120名、3学年合計で360名であり、令和元年度は467名である。(充足率:129.7%)</p>	<p>●志願者数の増大 ●入学定員の遵守 (100%~105%) (100%~105%)</p>	<p>●志願者の増加と質の向上 ・学校説明会 年6回実施 ・体験学習会、入試問題学習会等 年3回実施</p> <p>●入学定員の確保 ・入試改革を行う。</p>	<p>●説明会への参加者が増加しているか。 ●受験者数の増加と合格者の学力が向上しているか。 ●入学定員が厳守されているか。 ●説明会で学校の内容が的確に伝達されているか。</p>	<p>●説明会等の参加人数はのべ2,598名であった。(昨年度対比24.8%増) ●志願者はのべ3,265名であった。(昨年度対比29.3%増) ●入学者は213名で、定員を上回った。(医学クラス:30名、難関大クラス70名、進学クラス113名) 以上の取り組みにより、入学者の定員確保と、昨年以上の質の向上を図ることができたが、超過率が高すぎた。</p>	B	<p>●学校説明会、入試説明会、体験学習会等学校を知るための内容について新型コロナウイルス対策を含めた工夫、改善を行う。また、説明会の参加人数3,000名の達成、志願者3,500名以上、入学者 120名以上の達成。(医学クラス:20名、難関大クラス60名以上) ●生徒数は501名となり、充足率は139%となった。今後も定員をしっかりと守り、入学者の質の向上に努める。</p>	<p>●説明会参加者数と受験者数は増加したが、入学人数は大幅に上回っている。学習環境の悪化はないようなので、特に問題はないと思う。 ●医学クラスと難関大クラスの入学人数が増加しており、学校全体のレベルアップが期待できる。</p>	B
<p>●学習と部活動の両立と、家庭学習の習慣化を図る。 ●高校一貫部の大学進学を支援する。 ●授業力の向上を図る。</p>	<p>●中高一貫部の難関私立大学の合格実績は18名だった。 国公立大学が2名であった。 ●文武芸芸四道の進学校をめざし、学習指導・進路指導を充実させ、進学実績を向上させることが課題である。そのために中学校では基礎学力の定着を徹底する指導方法を確立させる。</p>	<p>●学力向上の具体的方策 ●中高一貫部の国公立大学・難関私立大学の進学実績の向上 ●授業力向上のための施策</p>	<p>●classilによる生徒の家庭での学習状況把握する。生徒は計画、実行、反省のPDCAサイクルを確立させる。 ●進路ガイダンスなどキャリア教育の充実を図る。 ●生徒が主体的に学ぶ授業を展開するために研究授業週間と授業参観を計画的に行う。</p>	<p>●教職員が結果を共有し、PDCAのサイクルが確立されているか。 ●国公立大学・難関大学合格者数は増加しているか。 ●大学進学率は向上しているか。 ●学力推移調査で学力は向上しているか。</p>	<p>●国公立2、GTARCH16、日東駒専23名他多数の現役合格を果たした。 ●国立を含めて進学実績は減少した。 ●学力推移調査は国語は伸びているが、英語・数学の中下位が増えている。Dランクの割合は全体に減少している。</p>	B	<p>●国公立・難関大学合格者数の具体的な目標値を設定し、授業内容の研究・改善及び進路指導を充実させる。 ●キャリア教育の充実を図り、大学進学のための学部・学科の指針を明確にする。 ●進路指導で、中高の連携を図り、6年間を見通した進路指導を確立する。 ●中高の枠を超えた連絡協議会を開き情報交換を行う。 ●授業力向上を第一とする。また、Classi導入による課題の配信、学習状況の把握と、0限目・7限目補習の充実を図る。</p>	<p>●定期試験後の補習授業や確認試験の実施など、学力向上に向けた取り組みが十分なされている。外部試験でも低学力者の人数が減少していることは良いことである。 ●大学進学実績が、昨年度より減少したことは残念である。 ●生徒の学習状況を把握して生徒個々への指導充実を図っていると思われる。</p>	B
<p>●部活動の充実</p>	<p>〈部活動数〉 男子 運動部18部・文化部9部 女子 運動部14部・文化部10部 〈加入率〉 全校生徒の93.5%の生徒が部活動に加入した。(昨年比+0.9%) 今後は各部の活動内容の更なる充実を図る。</p>	<p>●全国大会・関東大会への出場数 ●部活動への支援体制の強化</p>	<p>●優秀な選手の確保 各部の監督・コーチが少年団やクラブ組織の指導者との連絡・連携を密にし、学業も優秀な選手の勧誘を行う。 ●教員の指導力の向上 各部の監督・コーチが指導力向上の為に研修を深める。 ●指導体制の充実 各部の監督・コーチと担任・教科担任との連絡を密に取り、勉学との両立を図る取り組みを行う。</p>	<p>●全国大会への出場6部以上が達成されたか。 ●関東大会への出場8部以上が達成されたか。</p>	<p>●全国大会への出場12部(個人・団体) 全国優勝部 4部、全国入賞部 2部 ●関東大会への出場8部(個人・団体) ●部活動加入率(3月末) 全体の部活動加入率 92.6%(前年比-0.7%) ●評価指標を大きく上回ることができた。</p>	A	<p>●今後も更に各部の監督、コーチが少年団やクラブ組織の指導者との連携を密に取り優秀な選手の勧誘を行う事が大切である。同時に指導者の資質の向上に努め指導力向上のための研修を深めることが必要である。 ●生徒の学習と部活動との両立を図るため、各部の顧問が担任、教科担当者との連携を密に取り、生徒の現状把握と学力向上の手だてを図る。 ●部活動を通じてさらなる「人間力の育成」を図り、本校の教育目標を達成していく。 ●高校の部活動との連携を図り、可能な限り中高一貫指導体制を確立する。</p>	<p>●学習と部活動の両立が図られ、フォロー体制も充実している。 ●大会成績にとらわれるだけでなく、仲間との人間関係や顧問との連携に努力している。</p>	B
<p>●学校改革</p>	<p>●医学クラスのエデュケーションの構築 ●進路指導センターの充実 ●放課後7時限目以降の活用 ●第二外国語選択制 ●長期休業中の補習の充実 ●夕食の提供 ●キャリア教育の充実 ●基礎学力の充実 ●教員研修の充実</p>	<p>●医学クラスの状況 ●進路指導センター主導による放課後の任意プログラムとキャリア教育の進捗状況●人権教育(しじめ・体罰)の実施、生徒の学力向上に向けた取り組み</p>	<p>●医学クラスについては、平成28年度から募集を開始。放課後に外部の指導を取り入れる計画作成 ●進路指導センターについては、将来の生き方なり方を踏まえた進路指導を統括し、生徒の適性を考え担任と協力し、統一感をもって指導する方向に転換した。 ●補習から食事まで、放課後を一括してプログラムを実施。 ●埼玉経済同友会と連携したキャリア教育を充実させる。</p>	<p>●各改革案が実行されているか。</p>	<p>●医学クラスの定員は20名で、30名が入学してきた。また、難関大クラスも70名が入学し、基本的な体系を確立できた。中高一貫教育を前提とするが年度ごとに難関大クラスからの編入も可能とする。 ●放課後の補習体制は部活動と両立を図ることを大前提にトモノカキをやめて理数セミナー(医学対応)指導に力を入れていく。 ●夕食を提供している。 ●埼玉経済同友会の講演会、教育フォーラムへの参加 ●各学期に1回外部講師を招いて教員対象の人権教育を実施した。また、ベネッセによるクラッシーの利用方法の研修なども実施された。</p>	B	<p>●医学クラスの募集活動と、カリキュラムの提示。 ●放課後補習と第二外国語の検証と更なる発展的施策を行う。 ●教育課程の検討とPDCAサイクルの確立。 ●6年間一貫したキャリア教育の確立をめざす。 ●授業、補習、部活動、学校行事等すべてを関連させ、学校全体で体系的に教育内容を充実させる。</p>	<p>●6年間一貫を基に教育指導に当たっているため、入学を希望する児童も入学時から大学進学への期待が増えていると思われる。</p>	B

○達成度 A: 充分達成 (100%) B: 概ね達成 (80%程度) C: 変化の兆し無し (50%前後) D: まだ不十分 (30%程度) E: 方策の見直し (20%未満)